

# オリンパスのCSR

## CSR マネジメント

オリンパスグループは生活者として社会と融合し、価値観を共有しながら、事業を通して新しい価値を提案し、人々の健康と幸せな生活を実現していきます。

### CSR活動

オリンパスグループのCSR活動とは、社会からの要請・期待に応え、その義務・責任を果たすことです。「Social IN」という言葉をつくる以前から、オリンパスは、さまざまな形で社会に貢献してきました。しかし、私たちはそれだけで良いとは考えていません。事業環境や社会の価値観、オリンパスで働く人も変わっていきます。

その中で、従業員とご家族、お客さまやお取引先さま、株主さま、さらには地域や社会といったステークホルダー（Stakeholder：企業活動を行う上で関わる人や組織）に対しての責任を果たすことによって初めて、オリンパスという企業の存続が認められ、「人々の健康と幸せな生活の実現」に貢献できます。

### CSR委員会の設置

経営理念である「Social IN」の実現を目指し、全社のCSRをさらに強化するため、CSR委員会を設置しています。

CSR委員長である社長の意思決定を補佐し、決定事項に対するPDCA（Plan, Do, Check, Action）サイクルの推進・管理を通じて、オリンパスグループにおけるCSRの浸透と定着を図ります。

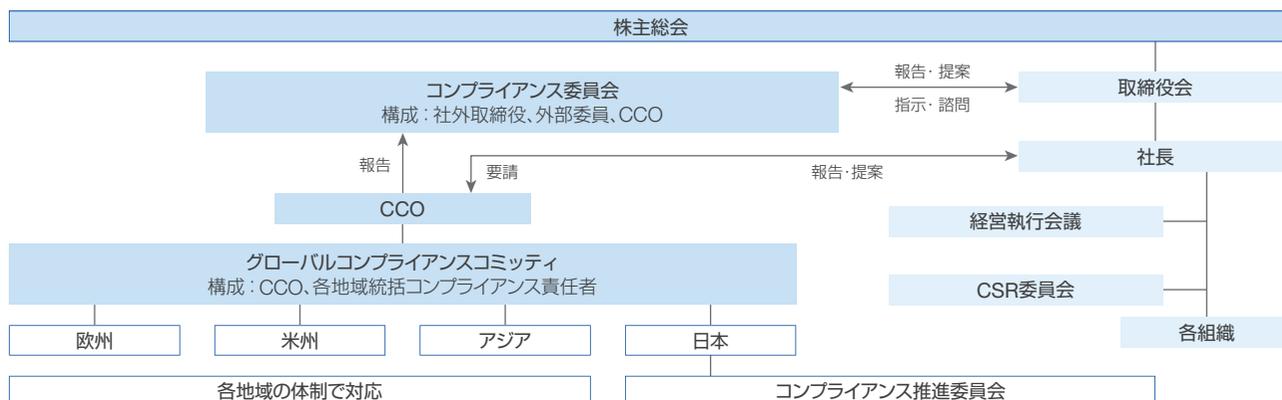
また、CSR委員会の傘下には各種の推進委員会を設け、CSR委員会と連携しつつ、それぞれの機能に即した全社施策の検討や計画化、推進に取り組みます。

### コンプライアンス推進体制

オリンパスは、コンプライアンスに関わる責任を明確にすべく、その統括責任者としてチーフ・コンプライアンス・オフィサー（CCO）を任命しました。また、取締役会の諮問機関として、社外取締役を委員長とし、CCOや外部委員で構成されるコンプライアンス委員会を設置し、原則四半期ごとの開催を通じて取り組みを強化しています。

コンプライアンスに関わる方針や施策のグローバル展開ならびに統括地域の状況や課題の把握、必要な是正措置を行うことを目的に、海外を含む各地域統括のコンプライアンス責任者によるグローバルコンプライアンスコミッティを原則四半期ごとに開催しています。

### コンプライアンス推進体制図



## 社会貢献活動

### 日本

#### 行政と連携し、大腸がん検診・精密検査の啓発活動を展開

オリンパスは、大腸がんで亡くなる人が減ることを願い、40歳以上の検診対象世代に対して大腸がん検診・精密検査の受診を呼びかけるため、2007年2月に「プレイブサークル大腸がん撲滅キャンペーン」を立ち上げました。2009年7月には活動の推進団体であるプレイブサークル運営委員会が特定非営利活動法人(NPO)として設立され、オリンパスを含む多くの企業・団体が参加する社会活動へと発展しています。

2014年3月期は約1,000市区町村へ住民検診の案内に同封する検査説明小冊子の提供や、173市町村のがん検診部門へ「大腸がんクイズラリー」の運営ノウハウや資材を提供しています。

オリンパスは、NPO法人プレイブサークル運営委員会のオフィシャルサポーターとして、活動を積極的に支援しています。



行政連携展示イベントへ社員がアテンド参加

### 北米

#### 米スミソニアン博物館への顕微鏡寄贈

Olympus Scientific Solutions Americasは、顕微鏡を通して“科学に興味を”という思いから、2013年12月に米国を代表する国立スミソニアン自然史博物館に新設された体験学習施設「Q?rius (キュリアス)」へ、顕微鏡50台および顕微鏡用デジタルカメラ、モニター、ソフトウェア等の周辺機材を寄贈しました。

Q?riusは、学生や一般来場者が、科学者とふれあい、また6,000種類を超える標本の観察を通して、科学とのかかわりや、科学者になるためにはどのような技能を磨けばよいのかについて体験し、学ぶことができる施設です。寄贈した顕微鏡は、主に中学・高校生を対象とした日常生活と科学のつながりを楽しく体験するプログラム等に使用されます。



体験学習施設「Q?rius」の風景

### 欧州

#### ハンブルク市進出50周年記念祭で5万ユーロを寄付

オリンパスのハンブルク市進出50周年を記念して、地域のハンブルク児童がんセンターへ5万ユーロを寄付しました。また、記念祭のチャリティの収益4,000ユーロを途上国の子どもたちとともに地域開発を進める国際NGO「PLAN」へ寄付しました。寄付は病気を患っている子どものケア、社会的支援のために使われます。



地元児童がんセンターに5万ユーロを寄付

### 中国

#### 障がい児施設への支援

中国・北京にある貧困家庭の聴覚障がい児を支援する施設に、従業員約20名が訪問し、子どもたちとの交流を深めました。図書や文房具等の寄贈とあわせて、子どもたちと一緒に野菜の収穫を行う等、体験を通して聴覚や言語のリハビリテーションの支援も行っています。



参加した従業員と施設の子どもたち

## 環境への取り組み (オリンパスの製品ライフサイクルにおける取り組み)

### グリーン調達

オリンパスは、環境活動に対する考え方について「オリンパスグループグリーン調達基準」を発行し、すべてのサプライヤーさまに対してお伝えしています。

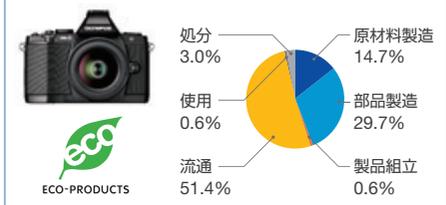
原材料・副資材	
金属材料	鋼材・アルミニウム・真ちゅう
プラスチック	光学プラスチック・ABS・PC・ポリエチレン・ポリプロピレン

### 製品での取り組み

#### 1. 製品のライフサイクルアセスメント

オリンパスは製品ごとの環境影響の特徴を把握するために、ライフサイクルアセスメント(LCA)を実施しています。

#### 事例：ミラーレス一眼カメラ「OM-D E-M1」のLCA



エネルギー (合計)	値	変動
電力	13,630万 kWh	(▲1%)
都市ガス	2,179千 m <sup>3</sup>	(▲11%)
LPG	694t	(+6%)
LNG	1,153t	(▲3%)
重油	315kl	(▲18%)
灯油	37kl	(▲25%)
軽油	2,380kl	(▲45%)
ガソリン	30kl	(▲16%)

事務系資材	値	変動
コピー紙	121t	(+16%)
化学物質 (PRTR対象物質取扱量)	39t	(▲18%)
水		
上水	42万 m <sup>3</sup>	(▲7%)
地下水	76万 m <sup>3</sup>	(▲5%)

### INPUT

調達

(研究) 開発

生産

### OUTPUT

温室効果ガス (合計)	値	変動
エネルギー系 CO <sub>2</sub>	92,631t-CO <sub>2</sub>	(▲7%)
非エネルギー系 CO <sub>2</sub>	51t-CO <sub>2</sub>	(+55%)
大気への排出物質		
NOx	90t	(▲29%)
SOx	0.4t	(▲18%)
排出物		
廃棄物排出量	3,859t	(▲1%)
リサイクル量	3,684t	(+1%)

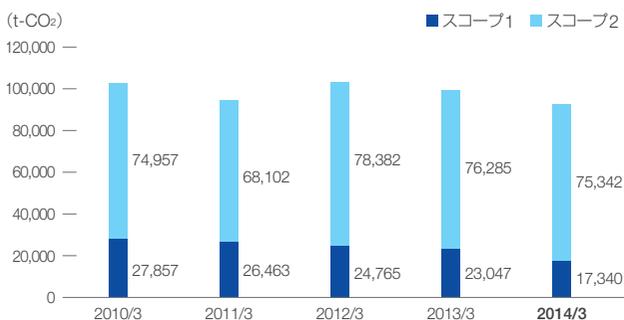
化学物質 (PRTR対象物質排出・移動量)	値	変動
	26t	(+15%)
水系への排出		
排水 (公共水域)	63万 m <sup>3</sup>	(▲7%)
排水 (下水道)	54万 m <sup>3</sup>	(▲3%)
BOD	2t	(+5%)

### CO<sub>2</sub> 排出量の削減

2014年3月期のCO<sub>2</sub>排出量は、前期比で7%削減

エネルギー消費の大部分を占める電力では、日常的な省エネ活動や自然エネルギーの導入、省エネルギー・省資源型の製造技術の開発等、ものづくりにおける環境改善活動を推進しています。

#### 製造拠点のCO<sub>2</sub>排出量の推移 (\*1, \*2)



\*1 対象範囲：国内・海外の主要製造・開発拠点

\*2 GHG プロトコルによる以下の区分で報告しています。

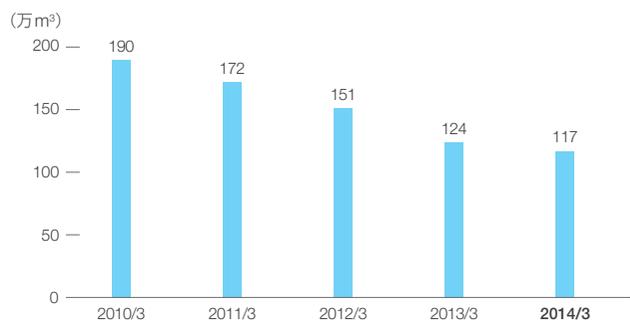
スコープ1：直接化石燃料の使用により発生する温室効果ガス排出量 スコープ2：電気の購入など二次利用による温室効果ガス排出量

### 水資源の保全

2014年3月期の水資源使用量は前期比で5%削減

オリンパスは部品洗浄で水を使用しています。水使用を削減する製造方法の開発、設備点検を通じた漏水対策のほか、排水処理設備の維持・管理、排水の水質管理等、環境影響の最小化にも努めています。

#### 水使用量の推移



## 2. オリンパスエコプロダクト

オリンパスは、「エコプロダクト運用規定」を制定し、環境に配慮した製品を独自の基準による「オリンパスエコプロダクト」として、環境負荷低減がより顕著な製品を「スーパーエコプロダクト」として認定しています。2014年3月期は36製品(累計503製品)の「オリンパスエコプロダクト」を創出し、そのうち9製品が「スーパーエコプロダクト」となりました。

包装材料使用量(合計)	■	841t (▲55%)
段ボール	■	499t (▲63%)
紙	■	175t (▲39%)
プラスチック	■	115t (▲40%)
金属	■	1t (— <sup>(*)</sup> )
ガラス	■	0t (0%)
他	■	52t (0%)
輸送燃料		
輸送燃料		ガソリン・軽油など

(\*) 前期は使用なし  
 ● 国内生産事業場のみ ■ グローバルの生産拠点  
 ( ) 内の数値は前期比

### エコプロダクト体系

#### スーパーエコプロダクト基準

オリンパスエコプロダクト基準に適合し、かつ下記項目のいずれかに適合

1. CO<sub>2</sub>削減率50%以上<sup>(\*)1</sup>(基準となる従来製品比<sup>(\*)3</sup>)
2. 質量削減率30%以上<sup>(\*)2</sup>(基準となる従来製品比<sup>(\*)3</sup>)
3. 革新的な環境配慮技術の搭載
4. 環境関連の外部表彰受賞

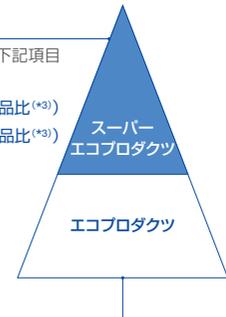
\*1 LCAによる算出値

\*2 個装質量

\*3 原則として2007年度製品

#### エコプロダクト基準の評価項目

・安全性・環境保全 ・省エネルギー ・省資源(3R) ・環境情報開示



### 物流

### 販売

### 修理・サービス

### 廃棄

輸配送のCO <sub>2</sub> (合計)	■	52,560t-CO <sub>2</sub> (▲12%)
日本国内	●	1,898t-CO <sub>2</sub> (▲2%)
国際間	■	50,662t-CO <sub>2</sub> (▲12%)

主な製品(合計)	■	2,278t (▲33%)
内視鏡	■	985t (+19%)
顕微鏡	■	579t (+14%)
デジタルカメラ	■	577t (▲69%)
録音機	■	137t (▲37%)

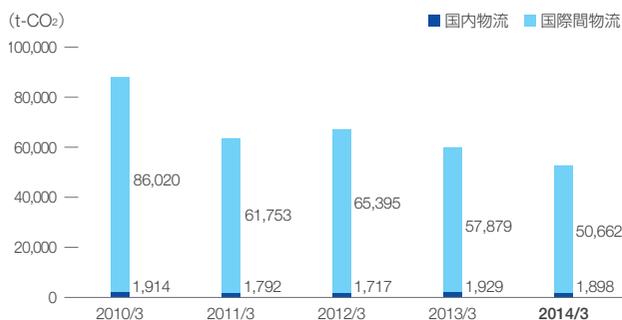


CSRの取り組みについての詳細は以下をご覧ください  
<http://www.olympus.co.jp/jp/csr/>

### 物流での取り組み

2014年3月期の物流CO<sub>2</sub>排出量は前期比で12%削減  
 製品・包装の軽量化による輸送重量の削減や輸送効率の向上、CO<sub>2</sub>排出量の少ない輸送手段に変換するモーダルシフトの拡大に取り組み、物流によるCO<sub>2</sub>排出量の削減を進めています。

#### 輸送におけるCO<sub>2</sub>排出量の推移



### 資源の有効活用

2014年3月期の廃棄物排出量は前期比で1%削減  
 廃棄物の埋立の削減やリサイクル率の向上、加工ロスの削減、廃材を少なくする設計を行う等、「資源生産性の高いものづくり」を進めています。

#### 廃棄物排出量の推移

